

特定非営利活動法人 Global Bridge Network

令和2年(2020年)度 事業活動報告書

1. 活動期間:2020年4月1日～2021年3月31日

2. 事業活動の要旨

本年度は新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、日本国内では緊急事態宣言、またウガンダ現地でもロックダウンが発令され活動が制限された。加えて過去3年間行っていた2つの助成事業が終了したこともあり、昨年度からの継続事業はなかった。そのような中で、ウガンダでは新型コロナウイルスの感染拡大の影響により職を失った若者や女性が数多くおり、現地のパートナー団体 SORAK から彼等の経済的支援の要望を受け、「マイクロファイナンス事業」(女性・若者のグループに収入創出の技術提供と起業家育成トレーニングおよび低金利の小規模融資)を開始した。

また、今年度は、過去3年に渡り Global Bridge Network (GBN) が実施してきた「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業(ウガンダ共和国)」事業を継続・拡大するため、JICA(国際協力機構)の草の根協力支援型への申請準備作業に注力した。JICA 横浜の担当者からも大変ご尽力いただき、2020年度第2回草の根技術協力事業支援(支援型)に採択され、2021年度から新規事業としてスタートすることとなった。

本年度は上述の通り、現地で実施する事業は限られたものになったが、教育、孤児施設建設、また環境保全に関する事業実施に向けて様々な助成金への申請準備作業などを行った。その間、ZOOMなどのオンラインツールを用いて頻繁に現地パートナーと連絡を取り合い、意見を出し合いながらお互いの認識を合わせ、素晴らしいチームワークができた。2021年度は新たにJICAの事業も開始するため、GBNの基盤強化のための人材確保や組織能力強化をしていくことが課題である。

3. 実施した事業内容

主な事業は「国際支援事業」、「国際交流促進事業」の2本柱であり、以下にその活動内容の詳細を述べる。

① 国際支援事業

1) マイクロクレジット(貧困層向けの無担保で小額の融資)事業



ウガンダ・ムベンデ県の農村部では、女性や若者の 80%以上が農業や小規模で低収入な商売を行う自営業で、彼等の大半は貧困状態に置かれている。食料、医療、衣類、学用品などの最低限の生活のための支出の余裕がなく、銀行や信用機関からの融資を受けることができないため、収入創出のためのビジネスを始めることができない。さらにコロナ禍の影響もあり、ますます経済的に困窮する若者が後を絶たない。そのような状況を受け、女性や若者の経済的自立支援として、マイクロクレジット(貧困層向けの無担保で小額の融資)を開始した。

今期は1年目として、SORAKの所有地にてパン作りのための工場の建設、ミキサーやオーブン、ストーブなどの機械や器具を揃えた。その後、若者12名(女子6名、男子6名)を対象にパン作り・実践研修のトレーニング(2週間)を実施した。さらに生産したパン、ドーナツなどの市場調査を兼ねて周辺地域へ営業したところ、小さなショップ経営者を含む200世帯が関心を持った。さらにトレーニング受講者と共に、様々なサイズや形、またセット商品、レモンガラスのフレーバーなどSORAKのオリジナルパン・ドーナツを開発した。開発した商品は個人宅、小売店、レストラン、学校、卸売店などで販売し、少しずつではあるが利益を上げている。2020年度はオリジナルパンの開発や販売の基盤づくりに力を入れ、2年目には若者に向けた小額融資を始める予定である。

- 事業名:マイクロクレジット(貧困層向けの無担保で小額の融資)を通じたウガンダ・ムベンデ県の女性や若者の経済的自立支援
- 実施期間:2020年12月1日~2021年3月31日
- 実施場所:ウガンダ共和国(ムベンデ県)
- 受益者:若者150名(女子80名、男子70名)・女性100名(2年間の予定)
- 支出額:融資として約50万円(その他SORAKの自己資金)



パンこね機で生地をこねる



生地を平らに伸ばす



ドーナツを揚げる前の切り分けた生地



ドーナツの形に丸める



ドーナツを運ぶ



並べる



ドーナツを並べる



ドーナツを揚げる



出来上がった食パン



販売用のパンとドーナツ



マーケティング(売り子)チームがパンやドーナツを販売



② 国際交流促進事業

1) 情報発信

コロナ禍におけるウガンダの現状(2020年9月23日)やSORAKのコロナ禍での取り組み(2021年1月31日)などをFBやブログで発信した。また、モザンビークに9年滞在歴のあるGBNスタッフ横田より、「モザンビークのお話」として、モザンビークの紹介や彼女の経験をシリーズとして発信している。今後は動画やオンラインなどを活用しながら活動報告や情報発信したいと考えている。

<リンク> *クリックするとブログに飛びます

- ・[【スタッフから報告】コロナ禍におけるウガンダの現状](#)
- ・[【SORAKから報告】コロナ禍における現地パートナーの取り組み](#)
- ・[モザンビークのお話](#)

2) 学生への活動紹介

2020年7月に横浜市立大学国際総合科学部グローバル協力コースの大学生数名より、GBNの「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業(ウガンダ共和国)」事業に関する質問を受け、Zoomのミーティングを開催して回答した。国内でも生理の問題は関心が高まっており、問合せを受けることが多くなってきた。我々の経験の共有はもちろん、様々な人たちの意見やアイデアも柔軟に取り入れていきたい。

3) 国際協力・多文化共生をテーマにするイベント

2019年度までよこはま国際フォーラム、国際フェスタとして開催されていた国際協力イベントは、2020年度は、コロナ禍で対面では開催されず、2021年2月にSDGsよこはまCITY名称を変えてオンラインで開催された。GBNは、実施中の事業がないことや、現地からのライブ配信など魅力的なコンテンツを準備することが難しかったため、今後に向けての情報収集のために出展者でなく参加者としてイベントに参加した。ICTを活用した活動紹介、広報の可能性について学ぶことが出来たので、今後はZOOMなどのオンラインツールを活用し、現地の様子をリアルタイムで伝えたり、現地と日本を結び交流の場を作るなどしたいと考えている。

法人名： NPO法人Global Bridge Network

貸借対照表

2021年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	841,955		
流動資産合計		841,955	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			841,955
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		549,717	
当期正味財産増減額		292,238	
正味財産合計			841,955
負債及び正味財産合計			841,955